

Citation: Evans DJ, Cullinan P, Geddes DM, Walters EH, Milan SJ, Jones P. Troleandomycin as an oral corticosteroid sparing agent in stable asthma. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 4. Art. No.: CD002987. DOI: 10.1002/14651858.CD002987.

CRG名: Cochrane Airways Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 2 September 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 11, Update

背景: 重症慢性喘息患者はしばしば経口コルチコステロイドの長期処方に依存性である。ステロイドの使用は重篤な副作用を伴う。このような患者を治療している医師は、経ロステロイドの慢性的投与の必要を減じる代替治療を探し続けている。トロレアンドマイシンは、有効な抗菌薬として確立された化合物であるが、喘息治療において有用である可能性のある非抗菌作用も有すると思われる。

目的: 本レビューの目的は、ステロイド依存性の慢性喘息患者の治療において、経ロステロイドへのトロレアンドマイシン追加の効果を評価する。

検索戦略: Cochrane Airways Group Specialised Register、および同定した論文の参考文献リストを検索した。最新検索日は2010年9月である。

選択基準: ステロイド依存性の成人喘息患者を対象として、トロレアンドマイシンの追加とプラセボを比較・検討しているランダム化試験。

データ収集と分析: 2人のレビューアが独自に試験の質を評価し、データ抽出を行った。欠損データを得るため研究著者に連絡を取った。

主な結果: 3件の試験が本レビューの選択基準を満たし、合計112例の患者がこれらの研究に集積された。90例の患者からのデータを解析した。トロレアンドマイシンにはステロイド減量に関する治療効果はなかった(SMD -0.29、95%CI -0.75~0.17)。肺機能の指標に対して、選択した研究のうち2件から導いたデータのメタアナリシスはトロレアンドマイシンの追加に利益を示さなかった(SMD 0.06、95%CI -0.8~0.9)。

レビューアの結論: ステロイド依存性の喘息の治療にトロレアンドマイシンを使用することを支持するエビデンスが不十分である。

(監訳 尹 忠秀)

翻訳公開日: 2011年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。